風水害について

毎年、全国各地で台風や大雨などの風水害で被害が発生しています。風水害から身を守るために、家や地域のリスクを知っておきましょう。

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	傘をさしていても濡れる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車の運転		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキがきかなくなる	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度でも、長く降り続くときは注意が必要。	側溝や下水道、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、土砂災害警戒区域等では避難の準備が必要。都市部では下水道から雨水があふれる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土砂災害が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

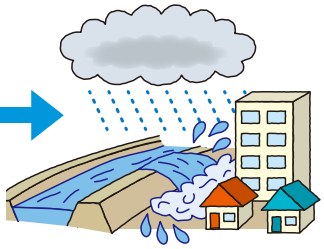
※表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量や地形・地質などの違いによって、被害の様子は異なることがあります。イラストは気象庁提供

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には川から水があふれたり堤防が決壊したりして起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫（がいすい）

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し、堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫がおきると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



内水氾濫（ないすい）

その場所に降った雨水や、周りから流れこんできた水がはけきれず、溜まっておきる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。

ため池の決壊にも注意!

大雨や地震が発生した際は、ため池の堤防が損傷を受け、決壊するおそれがあります。危険ですので、近づかないようにしてください。

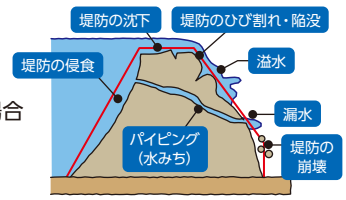
ため池決壊の前兆（一例）予兆なく決壊する場合もあります。

大雨時

- 堤防に漏水が発生している場合
- 堤防にひび割れや陥没、沈下が発生している場合
- 堤防を越えて水があふれ出している場合

地震時

- 堤防内にパイピング（水みち）が出来て、漏水が発生している場合
- 堤防の一部が崩壊や、ひび割れ、陥没、沈下が発生している場合



綾川町ため池ハザードマップ　10万t以上　10万t未満

ため池の貯水量管理の徹底を!

所有者（管理者）の皆さんは、貯水量を適正に管理しましょう。

長雨による水位上昇や地震による堤体の崩壊が進行すると、ため池が決壊し、下流に大きな災害を発生させることがあります。

付近一帯に「避難指示」が発令された滝宮の奥池（平成30年7月 西日本豪雨）